

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
みらい		令和7年 3月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		利用定員は10名です。療育室は1階に40㎡、2階に30㎡のスペースがあります。また、静養したいときには別に和室もあります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	✓		療育職員4名という限られた数で可能な限り手厚い関わりができるようにしています。個別ニーズに応えるため、サービス提供時間を分ける工夫をしています	そのような工夫により、1回の利用時間が短い場合も出てくるのが課題です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		人との関わり、話し声等が不快になる子には、個別や個室での療育にするなど配慮をしています。必要な子には視覚的な情報提示もしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		玩具や教材は倉庫など所定の位置に片付け、療育室の清掃も毎日行っています。4カ所ある空間を学習、制作、運動、遊び、静養など活動や状態に合わせて使い分けています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認めています。2階和室はクールダウンにも活用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	✓		全職員で確認し合い、共通認識をはかっています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		保護者向け評価アンケートや保護者からの要望等記入をしていただいています。その内容を業務や療育に生かしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		職員間でさまざまな話ができる雰囲気づくりとミーティング、個別に面談もしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓		第三者機関による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげることが望ましいと理解しています。社会福祉協議会の第三者評価事業等を検討するとともに評価費用の捻出が課題です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		児童発達支援責任者研修や虐待研修をはじめ、事業所内では感染予防や事故防止、防災などの研修を行っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		支援プログラムを作成し、令和6年度2月にホームページと事業所内掲示にて公表いたしました。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		アセスメントを実施し、心配事や療育への要望を確認し、個別支援計画書を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		療育担当者や他スタッフからの意見を確認してから個別支援計画書を作成しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		支援計画を作成段階から職員間と共有し、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		療育行動観察の記録や療育担当者の主観的評価によるアセスメント、5領域20項目評価などを活用したアセスメントを実施している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらいや支援内容を支援計画書に設定しました。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		活動プログラム作成にあたり、担当スタッフと児童発達支援管理責任者及び療育主任で検討を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		子どもの反応がバロメーターになります。楽しく有意義な活動となるために努力しています。安定性や継続性のために一定期間固定することはありません	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	✓		一部個別活動しか無理なケースはありますが、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ療育をしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		少ない職員で療育を実施するにあたり、事前の打ち合わせ（予定、分担）は不可欠です。スタッフルームにてミーティングをしています。	新人職員自身が打ち合わせや確認を積極的に行わなければならないと感じているとのことでした。チーム連携の必要性を感じて
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		支援終了後は、共有閲覧できるパソコンに各自が記録をするとともに子どもの反応など気づきを語り合うことが習慣づいています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		支援終了後は、共有閲覧できるパソコンに各自が記録することが習慣づいています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		モニタリングに際し、心配事や療育への要望を確認し、個別支援計画書の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	✓		①自立支援と日常生活の充実②体験的活動や遊び③地域交流④主体的参画を組み合わせ療育を行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	✓		ケースによっては保健師や医療機関、保育園などから情報を共有しながら療育や支援計画作成に役立てています。	新入職員が関係者連携会議の認識がなかったため、説明をしました。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		保育園などから情報を共有しながら療育や支援計画作成に役立てています。	新入職員が事業所と保育園等と連携している認識がなかったため、説明をしました。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		就学前に学校、園、教育委員会、相談支援、事業所が連携する会議に出席し、情報共有と相互理解を図っています。	関係機関と連携した支援体制は十分とはいえないと思われます。体制整備は課題です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	✓		学校との情報共有や連絡調整は保護者を介して行うことが多いです。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓		就学前に利用していた幼稚園や保育園など適宜情報共有するように努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓			障害福祉サービス事業所等へ移行する際、必要な場合は支援内容等の情報を提供しています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		✓	協力医療機関、支援学校教育センター等から助言をいただいたりしています。また、事業所連絡会にて発達障がい者強化事業を活用してスーパーバイザーから助言をいただきました。	柳井圏域に児童発達支援センターがありません。中核となるセンターがないことは、地域の課題の1つです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	✓		地域の公園を利用したり、地域行事に参加したりして、なるべく地域の子どもと交流する機会を持とうと努力をしています。	そのような交流はなかなか設定できていませんが、地域の公園利用や行事参加をしています。また、自治会の話し合いや活動に参加し、自治会の中で交流の機会が持てないか思案中です。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	✓		柳井圏域地域自立支援協議会の全体会や協議会の運営等には参画はありませんが、事業所情報交換会に必ず参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		送迎時にお子さんの状況をお伝えすることができています。送迎サービスを使われている方にも面談等を通して伝達をしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		家族に療育場面を見ていただく機会と一緒に療育参加してもらう機会を少しずつ設定し始めているところです。	家族に対してペアレント・トレーニング等や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っていくことが課題と捉えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		運営規程や利用者負担等については、利用契約時に説明書を配布するとともに口頭での説明も行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		保護者より心配事や療育への要望を確認し、個別支援計画書及び療育活動に反映しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	✓		計画書作成後、作成月以内に支援計画書をお示ししながら説明を行いサインをいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		送迎時や個別面談などでお話を伺いながら助言もしているところです。また、親の会を紹介する場合もあります。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	✓		家族に療育場面を見ていただく機会や一緒に療育参加してもらう機会を少しずつ設定し始めているところです。	親の会の活動への参加や協力が必要だと思っています。保護者同士の交流機会も試み始めているが、一部に留まっているところが課題です。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		苦情受付窓口を設置し、苦情解決のための第三者委員の方にも入っていただく体制を整えています。相談や申し入れがあった場合は、すぐに対応させて頂いております。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	✓		長期休みの活動行事予定はプリント配布をしています。令和7年2月よりホームページを開設しました。	情報発信の範囲が狭く、回数の少なさが課題です。ホームページを活用して、お知らせなどをしていきたいと思っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		個人情報の掲載された文書やデータを事業所外には持ち出さないようにしています。施錠できる書庫にて保管されています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		音声言語の表出がないお子さんには、写真・絵カードによる要求や指差しによる自己選択、50音票等を使った伝達をしてもらっています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		事業所行事に不特定多数の地域住民の方を招待することはできていないですが、自治会の役員の方などをお招きしています。	事業所行事に多くの地域住民の方を招待することが課題です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応それぞれマニュアルを策定しています。また、発生を想定した訓練も実施しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備え、定期的（年度初め）に避難訓練、避難路確認をしています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	✓		事前（まず契約時）に、服薬や予防接種、てんかん発作等の状況を確認しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		食物アレルギーの有無の確認や対応については、契約時に保護者に確認をしています。	保護者からの情報に従って対応しており、医師の指示書に基づく対応をしていきたいと思っています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		安全計画を作成し、研修等を行っています。ヒヤリハットの記入を促し、事業所内での情報共有に努めています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		安全計画を作成し安全管理などを実施しています。	安全計画に基づく取組内容について、家族等へもっと知らせていくことが必要と考えています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		ヒヤリハットの記入を促し、事業所内での情報共有に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		虐待研修については、職場外研修や事業所内で報告研修をしています。また、定期的にチェックリストで再確認をしています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		✓	やむを得ず身体拘束を行うかについては、身体拘束等適性委員会において検討することになっています。	必要なケースには、委員会での検討、保護者了解を得て支援計画に記載します。